

SGL046-P06

会場:コンベンションホール

時間: 5月25日17:15-18:45

20万分の1地質図幅「八代及び野母崎の一部」のトピック?先新第三紀の地層と岩石

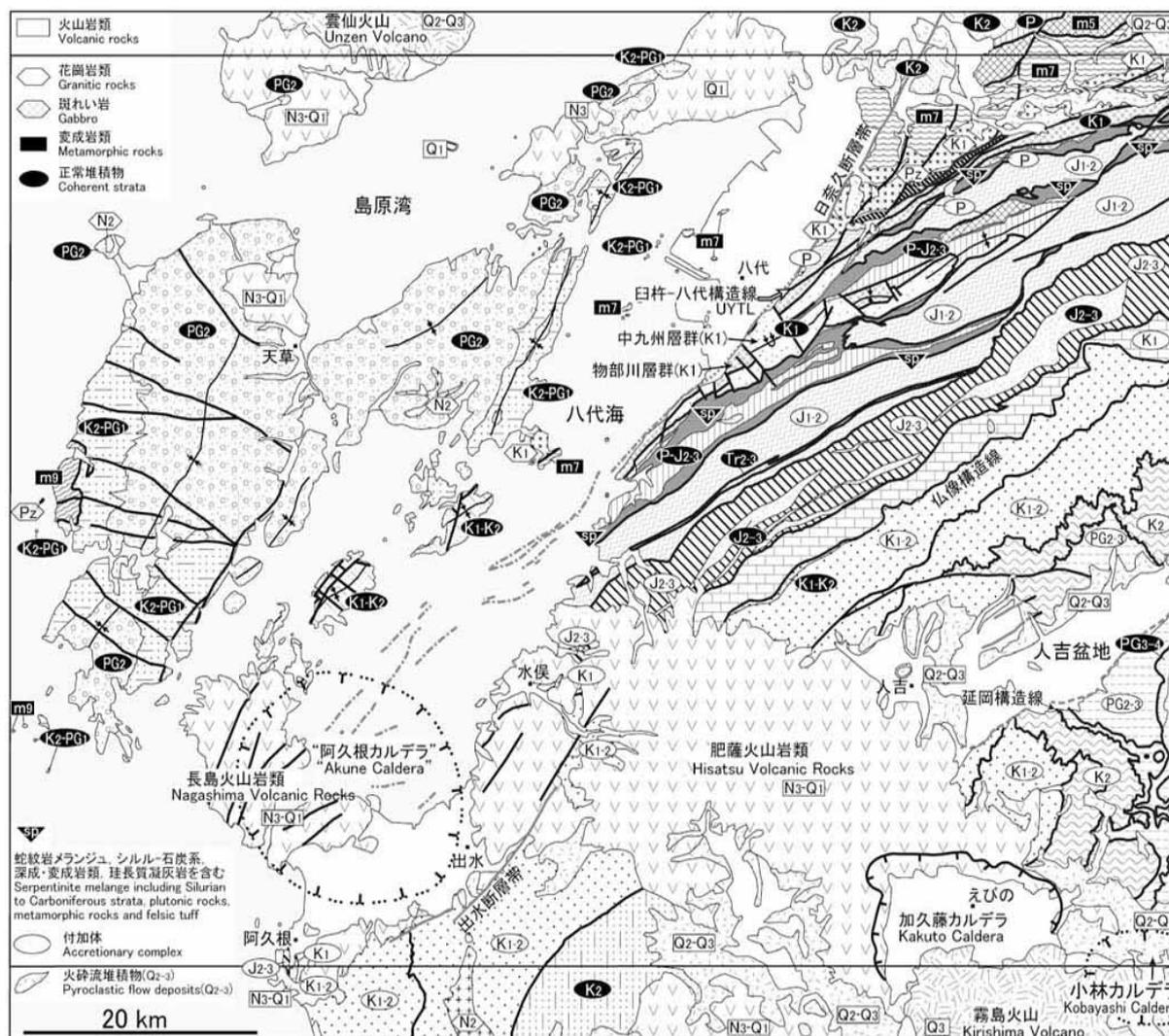
Topics of Geological Map of Japan 1:200,000, Yatsushiro and a part of Nomo Zaki - Pre-Neogene rocks and strata

齋藤 真^{1*}, 宝田 晋治¹, 利光 誠一¹, 水野 清秀¹, 宮崎 一博¹, 星住 英夫¹, 濱崎 聡志¹, 阪口 圭一¹, 大野 哲二¹, 村田 泰章¹

Makoto Saito^{1*}, Shinji Takarada¹, Seiichi Toshimitsu¹, Kiyohide Mizuno¹, Kazuhiro Miyazaki¹, Hideo Hoshizumi¹, Satoshi Hamasaki¹, Keiichi Sakaguchi¹, Tetsuji Ono¹, Yasuaki Murata¹

¹産業技術総合研究所地質調査総合センター

¹Geological Survey of Japan, AIST



齋藤ほか(2010) 1:200,000 「八代及び野母崎の一部」 Saito et al.(2010) 1:200,000 "Yatsushiro and a part of Nomo Zaki"

産総研地質調査総合センターの出版する20万分の1地質図幅は、昨年度末でに全国整備された。今後は1950年代、1960年代などの古くに出版された地質図幅の改正を行うことになる。本地域は、全国整備の最後に残った図幅の一つであった。その理由は、本地域内には、後期カンブリア紀の氷川トータル岩から第四紀の火山岩類までの多岐にわたる地質体が極めて複雑に分布していることが主たる理由と考えられる。

1995年以降、本地域内及び周辺地域で、いくつかの5万分の1地質図幅が刊行された。本地域北東端の「砥用」(斎藤ほか, 2005)、砥用地域の南東側(本地域外)の「椎葉村」(斎藤ほか, 1996)とその南側の「村所」図幅(原・木村, 2009)である。これらの地質図とそこで得られた地層区分、地質構造の知識を用いて、本地域中央部?南東部にかけての先新第三系の地層・岩石(主に付加体)の地質を詳細に示すことができた。

また、地質図幅は特定の地層・岩石の地質図ではなく、全ての地層・岩石形成史が矛盾無く説明できるよう研究者間で議論を繰り返して作成する。例えば付加体を初めとする先新第三系が新第三紀以降にうけた変形について、新第三系、第四系はもちろん、重力等にも留意して作成している。

その結果、いわゆる“黒瀬川帯”の構成岩類の分布と区分、ジュラ紀付加体を覆う地質体の分布、四万十帯の白亜紀?古第三紀付加体の地質構造と新第三紀以降の正断層系による変動について、興味ある結果が得られたので報告する。

キーワード:八代,地質図幅, 20万分の1,砥用,付加体,野母崎

Keywords: Yatsushiro, geological map, 1:200,000, Tomochi, accretionary complex, Nomo Zaki